

三井のリフォーム住生活研究所所長 西田恭子

地球温暖化を実感

土日の休みを利用して、青森のねぶた祭りに行った。東京が三二度で、青森が三六度。夜に練り歩くねぶた祭りは、例年長そで着用といわれているにもかかわらず、暑くてたまらない。青森ではいつもの年よりも気温が一〇度高く、うちわが配られていた。

本来は右に左に駆け抜け、大きなねぶたを、ぐるんぐるんと回転させる引き役の若い衆も、暑さ負けして精悍さに欠ける。ねぶたの前後を「跳人」という鈴を身体に付けながら地面をびよんびよん跳ねる人々も、跳ねている人が珍しいくらい、ひたすら歩いていて、跳人になるのが楽しみで、各地から訪れる人も多く、私の姪は二年連続参加していたが、今年は来なかった。きつとこの状況が、想像できたのであろう。

コンクリートジャンクルの東京では輻射熱も多く、暑いのはあたり前だと地球温暖化もじわじわとしか感じていなかったが、これは本当に大変だと今更ながら実感した。竜飛岬から北海

道を見やりながら、避暑地は北海道まで行かなければ駄目かもしれない、あるいは標高の高い場所でないところ……とつぶやいていた。

先日、財団法人電力中央研究所の方々の訪問を当住生活研究所が受けた。リフォーム時における断熱改修はどれくらい進んでいるのか？ をリサーチに来られ



たのだ。私のいる三井ビルのリモデ東京にはモデルルームが併設されており、戸建て住宅とマンションにおける外壁面に対する断熱リフォームの方法を、実際に見ていただくことができ。オプションになる場合と、マンションの定価性リフォームのようにはじめから外壁面の断熱材設置が標準になっている場合がある

が、リフォーム時の断熱の考え方は確立している。

だが残念なことに「断熱リフォーム」を、リフォーム動機として来られる方はまだまだ少ない。窓の断熱は壁以上に大切で、断熱サッシにする・ペアガラスにする・インナーサッシを取り付けるなど方法はいくつかあるが、セットさせていただいたお宅では皆さん「想像していた以上だ！」と驚きながら喜ばれる。インナーサッシなどは防音に関しても効果が大きいのだが、見えない音や熱の効果を説明するのは大変難しい。政府が推し進めるNEDO断熱リフォーム補助金制度もなかなか進まないのが実情だ。朝から一日中オフィスビルにいると一定温度に守られ、熱中症になる心配もなく、世の中の異常な暑さを忘れがちだ。今夏、本州最北端に行つて熱中症への身の危険を感じ、今更ながらではあるが地球温暖化の恐怖と真摯な対策への取り組みの大切さを感じた。

「お疲れか 跳人も跳ねず ねぶた行く」と、暑さの中で一句詠んだ。

(写真も西田所長撮影)



西田恭子氏のプロフィール 二級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。